



アニュアルレポート中国 2010



The Japan Institute of Architects

アニュアルレポート(支部活動報告書) 中国 2010

— 発行 —
平成 23 年 4 月

— 制作 —
社団法人日本建築家協会中国支部
〒730-0013 広島市中区八丁堀 5-23 オガワビル
TEL (082) 222-8810 / FAX (082) 222-8755
URL <http://www.jia-chugk.org>

— 表紙 —
株式会社松岡製作所(交流部会)
専務取締役 松岡 剛

— 印刷 —
(有) アウルズコーポレーション

建築家憲章

建築家は、自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承発展させ、地球環境をまもり安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。

(創造行為)

建築家は、高度の専門技術と芸術的感性に基づく創造行為として業務を行います。

(公正中立)

建築家は、自由と独立の精神を堅持し、公正中立な立場で依頼者と社会に責任を持って業務に当たります。

(たゆみない研鑽)

建築家は、たゆみない研鑽によって自らの能力を高め役割を全うします。

(倫理の堅持)

建築家は、常に品性をもって行動し倫理を堅持します。社団法人日本建築家協会（JIA）会員は上記憲章のもとに集う建築家であり、JIAは会員の質と行動を社会に保障するものです

CONTENTS

■2010年度 中国支部 総括

支部長 山田 暁

■副支部長発

「世界に向けて発信しよう」 副支部長 佐藤正平

「さあ、初めよう」 副支部長 前岡智之

「建築に対する意識を変えよう」副支部長 矢田和弘

■地域会会長発

岡山地域会 藤田佳篤

広島地域会 垂井俊郎

山口地域会 三村夏彦

島根地域会 龜谷 清

鳥取地域会 塚田 隆

■第5回 中国支部大会

「JIA中国支部建築家大会2010in 倉敷」

・実行委員長コメント

大会実行委員長 藤田佳篤

・内容報告

■第2回 JIA中国建築大賞2010

・審査報告

広島地域会会長 垂井俊郎

・総評

審査委員長 内藤廣（建築家）

・受賞作品紹介

■活動報告

中国支部

岡山地域会

広島地域会

山口地域会

島根地域会

鳥取地域会

■JIA中国支部組織表

■JIA中国支部会員リスト

2010年度 中国支部 総括



社団法人日本建築家協会中国支部長 山田 暁

今期、村重保則氏より支部長の任を受継いで、はや、1年が経ちました。年度当初に掲げた事業も、支部会員、役員の皆様のお蔭で、滞りなく遂行されています。さて、今期は、事業を大きく二つに分けて考えていた。ひとつは、支部内部へ向けての事業・活動です、支部組織の再点検、会員サービス活動等々がこれに当たる。他のひとつは、支部外へ向けての事業・活動です、設計業務環境の改善へ向けての活動、UIA2011 東京大会への参加・協力の推進活動、他団体との共同活動等々です。各個別の活動は、委員会報告に譲るとして、特にふれておきたい事として、

- 1、支部大会も、本年度2 順目に入り、無事「JIA中国支部建築家大会2010in 倉敷」として行われ、定着してきたように感じる。尚一層、会員サービスの面が充実した大会としていきたい。
- 2、JIA中国建築大賞の事業は、審査委員長に内藤廣氏に続けてお願いをして、多くの建築家にエントリーを頂いた。権威ある賞として、確立をしていきたい。

さて、次年度は、本部の公益法人化の動きに対応しての、支部・地域会の組織形態等の整備が求められる。支部・地域会の活動に関しては、継続性確保の担保が必要で、その為の取組みとして、組織の再編、規約の改定、財政基盤の再構築が考えられる。勿論、それらの問題は複雑で、単年度での解決は困難だが、どこかでスタートする必要がある。さらに、次年度は、UIA2011 東京大会の実施年度にあたる、支部としては、建築家職能の一般市民への広報として、また、我々自身の職能を考える一助の為、本大会を成功させるべく努力をしていく必要があると考える。また、支部として、JIAとして重要な、地域会の地域に根ざした活動（市民を巻き込んだ街づくり活動等）への積極的応援をしていくつもりです。

建築家らしく活動をしていきたいものです。

副支部長発

■「世界に向けて発信しよう」



中国支部副支部長 佐藤正平

事業系担当の副支部長をお受けして、1年が経過しようとしている。副支部長の仕事は、やろうと思えば限りなくあるが、楽をしようと思えばそれはそれでこなせていける、というのが山田支部長からの言であったが、今年一年、まさに後者の仕事ぶりで、支部長の補佐役がなかなか務まっておらず、反省することしきりである。

1年を振り返ると、中国支部大会 2010 IN 倉敷の開催、第2回中国建築大賞の実施、環境・再生フォーラム、UIA東

■「さあ、初めよう」



中国支部副支部長 前岡智之

副支部長を引き受けたもののこれまで不勉強だったため、改めてひとつひとつを確認し、対応していく始末です。今回アニュアルレポートに原稿依頼があり、改めて「アニュアルレポート？」となった次第。こうした場合、すぐインターネットに飛びつきます。(大変な時代になったものです)

[Annual report]] 別名年次報告書ときた。とすると副支部長としての年次報告か？“困った。何もしていない！”ただ、与えられたほとんどすべての会合には、参加した。このことを強く意識した。これまでの私には無かったことだ。参加して解ったことだけ——お役目についた人は、それ

■「建築に対する意識を変えよう」



中国支部副支部長 矢田和弘

今秋、UIA大会が東京で開催されます。3年前のトリノ大会には中国支部から同伴者を含め15名が出かけました。大会にはオープニングセレモニーだけ参加し、後はイタリア各地の視察研修の旅となり少し心残りでした。東京大会ではできるだけ多くのプログラムに参加しようと思います。

海外の建築家たちの“建築事情”はどのようでしょうか？日本ではようやく建築関連法規の上位法として位置づけられる「建築基本法」の立法化に向けた、国交省の「建築法体系勉強会」の初会合が2月2日に開催されました。全7回のこの会は2012年1月をめどに、論点を整理する計画とのこと。建築・法律・経済など学者だけの委員構成ですが、いず

京大会への支援取組及び広島でのイベント企画、米子公会堂保存への活動など、主だったものを数えても、一つ一つの事業は大変な密度と内容を持つものであった。加えて、各地域での多岐に亘る様々な活動を考えると、そこに各々の建築家による膨大な作業量と努力があることに改めて驚かされる。これらの活動は、並べて、地域社会に対する誠意と責任、社会倫理への信奉を前提としているように思う。

1987年、丹下さんを初代会長として、新日本建築家協会として設立以来、我々JIAメンバーは建築家の職能確立と社会的認知を目標として、活動を続けてきた。が、しかし未だにその成果が顕われていない状況だと思う。本年はUIA東京大会を控え、建築基本法の制定がなされ、建築家職能に注目される絶好の機会になる年です。山田支部長のもと、本年を好機到来、転換の年と考え、中国支部の活動をさらに盛り上げ、世界に向けて発信して行きましょう。

それ大変頑張っておられる。ほんの一部の人たちが釈迦力になって支えおられる。結構大変なことだ。一方、参加しない人は、顔をみるのがない(私もそうだったのだが)。振り返ってみると、参加してもしなくても別に困らないし、いつの間にか時が過ぎるし、会員であるという称号はいただけ。役員リストや委員会所属も綿密に決められているが、忙しいので出られる時だけでいい。誰かがやってくれる(私もそうだったのだが)。いま、与えられたほとんどすべての会合に参加した私だからあえて言う。情報には目を通そう。案内がきたらすぐ返事をしよう。そして参加しよう。お話ししよう。顔を合わせよう。たまには酒を飲もう。

某氏いわく“本気になれば何でもできるよ”さあ、初めよう。

現実務まも加えてその論点は多岐にわたると思ひす。

JIAが目指す「建築基本法」の中に、設計者選定もあります。アメリカでは、小学生に、例えば、モーツァルトやベートーベンの曲目と同じように、近代や現代の有名建築とその設計者を学校で教えている州があるそうです。日本でも全国の小・中学校教育の現場に私たち建築家が「出前講座」を担当し、建築や街並みのすばらしさや、それらを創っている建築家のことを教えるべきだと思います。そうすれば、やがて子供たちが社会人になったときには、「建築」を「ハコモノ」などと言ったりしない世の中になるはずで。発注にかかわる様々な立場の人たちや、国民の意識が変わらないと設計入札はなくなりません。次世代の建築家が夢を抱いて仕事に取り組む環境になってほしいと思います。

地域会会長発

■私達は【岡山の文化と建築を考える】をテーマとして地域会での事業に取り組んでいます。

岡山地域会 藤田佳篤
口他団体との交流と意見交換会

建築をつくることは、いろんな専門家(都市計画/土木/不動産/造園/構造/設備/デザイン/法律家など)との連携・協働をとりながら進めなければ何もできません。今まではこのようなジャンルの人達と会話する機会があまりなかったため、お互いを理解し合う場を持ち合わせていませんでした。そこで岡山地域会では3年程前から、現状の環境を見直す機会と、今後のコラボレーションでの連携をとりながらモノづくり、マチづくりを進めて行けるコミュニケーションを図ろうと、さまざまな関連団体との意見交換・交流会を持っています。

口岡山の文化・歴史を継承する

岡山の文化や歴史を、今の時期に後輩達につないでいくことが大切なことだとの思いを実行に移そうと、現在県内で活躍中の芸術家や作家及び歴史家の方々と一緒にコラボレーションのできる環境づくりを心掛けています。こういった人達との交流会を設けてお互いの理解を深めたり、また「城下町おかやま」のまちづくりの核となる岡山城を中心とした文化や歴史を学び、お城の再現へ向けた勉強会も回を重ねています。

JIA岡山地域会会員数は現在50名。日頃建築家の仕事を通じて社会福祉の向上に努めることを意識し、これからも改めて「岡山の文化と建築」の継承をしっかりと、他団体とも連携をとりながら、JIA独自の動きだけでなく建築業界が一緒になって社会貢献に努めて行ければと思います。

■「ひろしまの課題」

広島地域会 垂井俊郎

いまは時代を経るに従い弱体化しチャレンジ精神が欠落し無関心的な人が増えていると感じます/ひろしまの夢を：視点を明らかにして歴史を踏まえた活動を/不易流行：発展し続ける組織はその理念や行動する人たちが卓越した人達です/会員の国際的活動：UIA 国際建築家連合(ユネスコの外郭団体)に属し第24回世界建築会議「UIA2011 東京大会」 「DESIGN2050」に参加します、広島地域会は記念広島イベントの展示会「広島啓示」を担います、みんなの力で丹下健三・白井晟一・イサム・ノグチ・磯崎新のオリジナル作品を公開展示し見て頂き、いま再び「ひろしま」を考えましょう、一人ひとりたゆみない研鑽と高い倫理意識のもと親睦を深め、地域社会に職業を通じて「理想の広島」づくりに貢献します、これからも建築の価値を伝え、未完の都市の再生に挑み続け、平和都市広島の「建築の文化」に努めてまいります。

■今年度の活動について

山口地域会 三村夏彦

「中国支部大会 in 倉敷」では、古民家再生によるまちづくりがとても参考になった。前年の下関大会では近代建築がテーマであったが、まちづくりのなかで、もっと近代和風建築の再評価や保存活用の必要性を感じている。本年6月には萩往還佐々並宿が、萩市4ヶ所目の国の「重要伝統的建造物群保存地区」として新たに選定されるが、一方で周辺の身近な古民家がどんどん解体される現実がある。

国交省主導により、10年度から3ヶ年で「伝統的構法の設計作法及び性能検証実験」が進められている。本年1月に実大震動台実験が行なわれ、土壁塗石場建ての実験棟が、阪神大震災と同等の加振にも倒壊しなかったと報告されている。少しでも早く検証を進め、石場建ての伝統的構法や古民家再生にむけて、法的適合性への道筋を開いてほしいと願う。

昨年10月には「木材利用促進法」が施行され、建築界の中でも様々な新たな展開が期待される。新年度は山口地域会としても、地域産材の活用を含めた木の建築文化をテーマに、続けて活動を計りたい。

■今年度の活動について

島根地域会 龜谷 清

3.4年前まで島根地域会の会員数は非常に少なく20人を切っていたが、この2.3年で24人までなりました。会として活動するにはある程度の人数が居ないと難しいと考えます。今年は30人を目標に若い優秀な新人の勧誘に努めたいと思っています。それに伴い今まで島根地域会には会則が無かったので、JIAの公益法人化に合わせて会則を作ろうと考えています。

中国建築家大賞について島根地域会の会員が2年続けて受賞していますが、今年も島根地域会の会員又は島根地域会と一緒に活動している人の中から受賞者が出るよう発掘に努めます。

■『鳥取発』

鳥取地域会 塚田 隆

昨年度より、鳥取地域会会長をつとめさせていただいています。鳥取地域会は全国で最も会員数の少ない地域会です。しかし、会員同士がしっかりコミュニケーションをとることができます。活発に活動し、元気な地域会とする為、今年度は4つの目標を立ててがんばっていきます。

○年間活動(地域会)を見直し、会員皆で参加し活動する。

○会員増強に努める。特に若い方の入会を勧める様、積極的にはたらきかける。

○JIAの魅力ある事業に、積極的に参加する。

○UIA 東京大会の登録を60%以上確保する。

以上です。

第5回JIA中国支部建築家大会2010

in 倉敷

■ 実行委員長コメント



大会実行委員長 藤田佳篤

JIA中国支部大会は2006年度から始まり、今年度の第5回から2巡目に入った。山田新支部長にとっては一年目の大会でありテーマは「エコと再生」です。新支部長の地元での開催、かつテーマにふさわしい場所として倉敷市の美観地区周辺を選定し、11月12日・13日の2日間にわたって行われた。

倉敷は江戸時代は天領として栄えた町で、特に美観地区では町並み保存運動の先駆けとして全国的にも周知のことです。この場所に中国支部会員が参集し、建築の継続性やエコについて考えるメニューで取り組んでみました。私達は建物をつくるだけでなく、その後の時間経過があって次に受け継がれ、また使い続けられることのできる建築とはどのようなことなのか？そしてそれには何が必要であるのか？などのことを改めて考え直してみることに意義をおいた大会にしたいと考えました。

歴史文化のあふれる倉敷会場まで足を運んでくださった方々には、倉敷スタイルでの「エコと再生」に関して、何らかのメッセージを受け取っていただけたなら幸いです。

なにはともあれ、天領の町並み散策や倉敷国際ホテル（浦辺鎮太郎設計）での懇親会などもあり、楽しい時間を過ごすことができました。また、いろいろな人との交流もあり収穫の多い大会となりましたこと、本当にありがとうございました。

ご協力頂いた会員の方に深く感謝申し上げますと共に、また次回の大会に期待をよせまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

■ 内容報告



□ 大会概要

日時：2010年11月12日（金）13日（土）

会場：倉敷市芸文館 アイシアター

後援：岡山県

倉敷市

(社) 岡山県建築士会

(社) 岡山県建築士事務所協会

(社) 日本建築学会中国支部岡山支所

岡山建築設計クラブ

(社) 日本建築構造技術者協会中国支部岡山地区

(社) 日本建築積算協会中国支部

□ プログラム

12日（金）

13:00 開会

13:20-14:40 建築フォーラム「エコと再生」

14:45-16:20 パネルディスカッション

16:30-17:00 倉敷まち並み散策

17:00-18:30 再生事例 商家はしまや見学会

18:30-20:30 懇親会

13日（土）

9:00-9:30 交流部会PR

9:40-10:40 中国建築大賞2010入賞発表

10:45-12:15 講演「地域と建築」

13:30-15:30 岡山建築デザインフォーラム

15:30 閉会



□ 建築フォーラム

基調講演「公共建築とエコ」



JIA 環境行動ラボ 岩崎克也（日建設計）

「公共建築のエコ」への取り組みについて、実作の「南アルプス市健康福祉センター」と「港区立芝浦小学校・幼稚園」を参考例として講演していただきました。

「南アルプス市健康福祉センター」は、風の道の確保による自然換気、トップライトによる自然採光、井戸水利用した床輻射型冷暖房など、エコへの取り組みを十分理解できる施設でした。

そして、「光」「香り」「音」「風」「手触り」の五感で感じるユニバーサルデザインで構成されており、来訪者に分かりやすく、優しい施設になっているように感じました。

「港区立芝浦小学校・幼稚園」は、セーリングウォールと呼ぶ、騒音や風の影響を緩和する壁が特徴のある建物でした。この建物もソーイングルーフや光ダクトによる採光、風の等による自然換気等、色々工夫が凝らされていました。

どちらの実例もエコへの取り組みと質の高いデザインを両立しており、印象深い建物でした。

岡山地域会 大角雄三

□ パネルディスカッション

「古民家再生から町づくりへの取り組み」

パネリスト

江面 嗣人：岡山理科大学総合情報学部建築学科教授

赤澤 雅弘：地域振興プランナー

中村 泰典：NPO法人倉敷町屋トラスト代表理事

橋村 徹：建築家、倉敷建築工房・橋村徹設計室主宰

コーディネーター

山田 孝延：JIA 中国支部再生・環境対応委員会委員長

倉敷は江戸時代に天領として栄えた町で、昭和54年には伝統的建造物群保存地区に指定され、現在も観光客であふれています。「エコと再生」をテーマにした今回の支部大会で「古民家再生から町づくりへの取り組み」と題したパネルディスカッションが山田コーディネーターのもと開催された。パネラー紹介ののち、それぞれの活動紹介やその視点からの発言があり、今後の取り組みや考え方の参考となる内容が提示された。

江面先生からは、文化財建造物の研究、登録文化財や町並み保存のための調査や指導をされている立場から、伝統的建造物群保存地区制度の経緯や概要などの特徴を説明され、今後の、住民生活を尊重した扱いと外観の保存、時代に沿った変化を許容する修景事業などについても、考え方を示していただいた。赤澤氏からは地域プランナーとして倉敷市玉島で行っている活動を披露していただき、寂れゆく旧港町玉島中心街を中心とした町並みと地場産業を活かした産業観光への取り組みの一端を示していただいた。中村氏はNPO法人倉敷町屋トラスト代表理事のほか、倉敷まちづくりネットワーク代表世話人、倉敷伝建地区をまもり育てる会事務局長、エフエムくらしき設立などまちの活性化に関する多彩な活動をされ、平成22年には都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」を倉敷美観地区が受賞したのに合わせ、活動団体として表彰を受け、これまでの経歴からの報告と提案を語られた。橋村氏は30数年前より倉敷で設計活動を始め、以来古民家再生や倉敷にこだわった活動を行ってきた建築家で、設計者の視点からのコメントと考え方を示していただいた。

4人のパネラーによって、文化財保護、資源を生かした産業観光、歴史的なまちをまもり育てる、建築家の取り組みの具体的な活動例を示していただき、古い町を活かしながらこれからの生きることの大切さ、保存と活用、時代の変化に対する対応などが提示され、示唆の多い倉敷でのひと時であった。



岡山地域会 武田賢二

□ 倉敷まち並み散策・商家「はしまや」見学
『倉敷のまちを歩く』

大会副実行委員長 高田 一

平成22年11月12日(金)の夕方1時間ほど、まち歩きをしました。

60名をこえる参加者があり、3班に分かれて、グループごとに歩きました。

倉敷芸文館から、倉敷川に沿って歩き、考古館から旅館倉敷の横を通って、吉井旅館、森田酒造の前を通り、本町から東町へと、古い街並をみながら思い思いに、歩きました。そして、東町の呉服店・はしまやの前に、全員集合して、古民家再生を長く手がけておられる榎村徹さんに、お話をききました。古いはしまやの看板やランプから、往時をしのびました。

班ごとに、順に、はしまや(楠戸家)と、蔵(店舗、喫茶、ギャラリー)と、倉敷建築工房榎村設計室(事務所)の3ヶ所をじっくりとみせて頂きました。

日頃は見れない所も見せて頂き、本当に勉強になり、皆さん満足の表情で、次の懇親会場へ向いました。



□ 岡山建築デザインフォーラム

コメンテーター 出江寛氏 (JIA 前会長)
錦織亮雄氏 (JIA 名誉会長)
山田暁氏 (JIA 中国支部長)

中国支部大会の2日目、午後より恒例となったデザインフォーラムが開催された。

プレゼンテーターは、佐野宣夫氏、和田洋子氏の2名の方に登場していただき、各々住宅2題の作品のプレゼンテーションが行われた。佐野氏は里山の風景の中にあって、現代住宅をどう考えれば良いかを問い、また和田氏は住宅の意匠を即、構造架構として捉えるなど、それぞれの作品に対する取り組み方が語られた。

コメンテーター・プレゼンテーター双方に於いて、リージョナルな建築についての白熱した議論が交わされた。



佐野宣夫氏の作品



和田洋子氏の作品



□ 第2回 JIA中国建築大賞2010
特別講演「地域と建築」



建築家 内藤 廣

どうもこの国は危なくなっている。中国、韓国の経済力や社会制度を含め、ある傾向が見られる。建築ジャーナリズムはおとぎ話をしている。片方でこの状況を良くして行こうという人たちがいる、JIAの方は恐らくこの方の人たち。都会はある程度経済力がある。地方は、中央に比べ、この国が抱えている問題が顕在化するスピードが速い。私がこれまで土木・建築に関わり、役所と関わってきた。役所のシステム、効率も全て旧式になっている。政治がコントロールできていない。やはり、原点に戻る必要がある。中国建築大賞の審査で倉森名誉会員、錦織名誉会員と一緒に頂き、話をしたなかで印象に残ったのは、焼け野原になった時の話です。勿論、精神的に、そこまで戻った方が良いのではないかと。

ほとんどの法律や制度が固まるのは1960年代です。それから50年経っている。山を見てください、日本の植林政策は間違いましたよ。人口政策は明らかに間違いましたよ。津波の様な高齢化が襲ってきている。東京の20年後の高齢化率は島根県を抜くんです。みなさんはそう考えたことがないでしょう。昨年は日向のことを話しましたが、今回は、建築の話をしません。最近私が考えていることを話したい。

このような高齢化社会は、寡って人類が経験をしたことがない未体験ゾーンです。そして、中国も20年後には同じこと経験しなければならぬ。さらに、東南アジア諸国もその後続きます。返せば、日本は他国より20年先取りしている事になります。そのことについて、外国でよく聞かれます。日本の都市はどうするんですか。建築はどうするんですか。恥ずかしいですが、応えられない。我々は建築文化を通してどうすればいいのか、その問題にどれだけ努力し、どう取り組んでいるのか、まだまだ考えが足りない。

「どこにでもある場所と、どこにもないわたし」村上龍の本のタイトルです。「場所」を「まち」に読み替えてもいい。皆さん判っていると思います。これが問題です。次に人口曲線の問題です。ルネサンスの時は世界人口が5億人、私が生れた1950年で25億人、いまや68億人です。私が生きている間に80億人位になります。このことをどう考えるか。日本の人口構成です。これも、他の国が20年後に同じようになることが判っている。つまり、今生きているこの場所で豊かにどう生きられるかを考えることです。

役所は建築を設監のヨコ2つ割り、統括意匠・構造・設備のタテ3つ割りにした。統合・融合が必要な時である。平成15年美しい国づくり政策大綱で、国がやって来たことの違いを認めている。戦後の経済優先政策を見直し、自然に調和した国土づくりをするとして明記された。景観法がスタートした。この景観法の実効性が最近まで倉敷市助役をされていた神田さんです。景観法が刑法と繋がることと住民の発意から始めて景観を議論して、皆が合意できれば何でもできることが画期的な法律です。国土交通省所管で戦後初の3文字の法律が出来た訳です。法律が機能するにはその法律に関わる人が末端にいることが大事。建築家が地域で様々なニーズに応える立場と能力を持って関わられる職能の持ち主です。ただ、建築家が地域の人との関わり方がまだ判っていないので、これからの課題として取り組むべきです。

時間軸を横に引き、現在から、100年後のことを、去年のことから100年前のことをどうやって結びつけ説明できるか。つまり、来年のことを考えるには去年のことを、100年後のことを考えるには100年前のことを結びつけて、行政を含めて説明できることが大事。

青森の「ごろ」というものがあります。200年の間端切れの布を代々継ぎ接ぎし、重さ200kgにもなる。寒い時には家族がこれに包まり命を繋げてきた。また、出産のときに用いてきた、代々、端切れを繋ぎ合せ継ぎ接ぎしたものがある。命を繋いできたものです。これらは実に美しい。建築も一つ一つは粗末なものであっても、繋ぎ合わされば実に美しい。そういう価値があると考える。「ごろ」に見られる美しさや価値をこの50年間に失ってきた。建築文化が失ってきたものを見直す必要があると思います。先ほどの富田さんのエスキースはそんなことを言っているように思えます。

建築とは概念。建築基準法は建物法です。建築学会は建物学会です。建築とは自然のものをどうやって、人に、構築的意思を持って提供できるかという概念です。また、デザインも人と物を繋ぐものです。この建築とデザインは2点セットです。この概念を建築家だけのものとせず、都市・土木・建築の境界をなくし、もっと拡げて使う必要がある。心理や物の作り方がわかる皆さん(建築家)が建築の概念を拡げてください。これから20年後には公共工事の発注がさらに半減する。そんな予測のもと、建築家の果たす役割が大事になります。

我々はこれからどう「誇りを持って暮すか」というところにきています。中国支部では東京を向かない「人間中心主義の旗」を掲げてください。支部の皆さんは、今までと違う幾つかのコンテンツをあげて発信してください。

中国支部副常任幹事 大石雅弘

第2回 JIA中国建築大賞2010

■ 審査報告



JIA 中国建築大賞実行委員長 垂井俊郎

「第2回 JIA中国建築大賞2010」はJIAの建築家憲章の理念『建築家は自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的な資産を継承、発展させ地球環境を守り安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。』に基づき中国5県に造られた作品のうち、優れた建築デザイン、建築文化や環境形成に寄与した建築作品を設計した建築家を顕彰致します。

応募建築作品は最近10年以内(2000年1月から2009年12月まで)に竣工した建築作品で一般建築部門・住宅部門の2部門とし、審査委員長は建築家 内藤廣先生、審査員は建築家 倉森治先生、建築家 錦織亮雄先生にお願いしました。応募は7月1日から8月12日まで行い、全国の建築家から一般建築部門は16作品、住宅部門は15作品の合計31作品があり昨年より3作品多く応募がありました。

8月下旬に一次審査・書類選考を行い、一般建築部門は2作品、住宅部門は4作品の計6作品が現地審査対象作品として絞られました。

現地審査は9月22日・23日に審査委員長、審査員の立会いのもと行なわれ、22日は山陽、23日は山陰と移動距離が長く、現地滞在時間が短くなりましたが、数々のエピソードも生まれ予定通り行うことが出来ました。

厳正な審査の結果、内藤廣先生、倉森治先生、錦織亮雄先生により一般建築部門・建築大賞1作品 優秀賞1作品、住宅部門・住宅大賞1作品 優秀賞3作品が選ばれました。

11月12日、13日に開催されたJIA中国支部建築家大会in 倉敷2010にて入賞者発表を行い審査委員長 建築家 内藤廣先生の講評と大賞受賞者による作品説明を行いました。受賞者の表彰式は2011年4月の中国支部総会にてとり行います。

応募・審査期間中、多くの方々のご協力、ご支援、ご配慮をいただき、この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。今後も「JIA中国建築大賞」が中国地方の社会的・文化的な発展を担うことを期待しております。



■ 総 評

審査委員長 内藤 廣
(建築家・東京大学大学院教授)

本賞は今年で二回目になります。秋になると、中国地方を駆けめぐり、審査対象の建物を見せていただくツアーが恒例になってきました。建築家の思いのこもった建物を見て歩くことは、わたし自身とても勉強になります。

今年建築部門で現地審査に残ったのは対照的な二つの建物でしたが、どちらもとても素晴らしい建物でした。住宅部門の現地審査は四つの建物でした。こちらもツブぞろいでした。

毎回思うのですが、この賞の目的は、地域や地域の建築家達を励ますものであってほしいと思います。一方で、開かれたものでもあってほしいと思っています。仲間内の褒め合いや独りよがりでは、やがて賞は力を失ってしまうからです。良い建物を曇りのない目で顕彰し励みとする。それこそがこの賞の全国に向けたメッセージであり、それがこの賞ならではの品格を生み出すものと信じています。

■ 審査委員

審査委員長 内藤 廣
(建築家・東京大学大学院教授)
審査員 倉森 治
(建築家・JIA名誉会員)
審査員 錦織亮雄
(建築家・JIA名誉会員)

■ 受賞者作品リスト

- 一般建築部門 建築大賞
津山洋学資料館 (岡山県)
とみた れいこ
設計者 富田 玲子 (株)象設計集団
- 一般建築部門 優秀賞
モリハコ
森 ×hako (広島県)
まえだ けいすけ
設計者 前田 圭介 UID
- 住宅部門 住宅大賞
Slow House (島根県)
えすみ としり
設計者 江角 俊則 一級建築士事務所江角アトリエ
- 住宅部門 優秀賞
楽山文庫 (広島県)
にしの たつや
設計者 西野 達也 金沢大学
にしの なみ
設計者 西野 奈美 にしのなみ建築設計室
- 須波の家 (広島県)
ふじもと かずのり
設計者 藤本 寿徳 藤本寿徳建築設計事務所
- キナリハウス (鳥取県)
くるま なおき
設計者 来間 直樹 クルマナオキ建築設計事務所

■ 受賞作品紹介

審査委員長 内藤廣
(建築家・東京大学大学院教授)

□ 一般建築部門 建築大賞

津山洋学資料館 (岡山県)

とみた れいこ

設計者 富田 玲子 (株)象設計集団

「津山洋学資料館」は、旧街道筋の伝統的な町並みの中に控えめに建っています。建物は、この地出身の幕末の蘭学者箕作阮甫、保存されているその旧宅の隣に建てられています。五角形が連なる平面構成が特徴的ですが、現地を訪れてみると意外なほど控えめで、この形がかえって街に溶け込んでいることがわかります。この建物の個性は、設計者が加えた幕末から明治を想起させるような装飾的な部分によって醸し出されています。それが単なる作品的な自己顕示になっていないところが素晴らしいと思いました。街並みと時代、伝統と洋学、そうした本来混ざり合わないものを、サラリと巧みに処理している、その技量に感じ入りました。建築部門の大賞にふさわしい作品だと思います。



撮影：尾藤公生

□ 一般建築部門 優秀賞

モリハコ

森 ×hako (広島県)

まえだ けいすけ

設計者 前田 圭介 UID

「森×hako」は、写真で見るより実物の方が説得力がありました。若い設計者の意気込みを感じさせる建物でした。レイヤー状の壁で切り分ける全体構成は、いかにも若々しい発想です。しかし、単にそれだけなら実物を見てガッカリするのですが、ディテールに対するこだわり、素材の扱い、設計密度、どれも納得のいくものでした。可能性のある才能として、今後に期待したいと思います。



撮影：上田 宏

□ 住宅部門 住宅大賞

Slow House (島根県)

えすみ としのり

設計者 江角 俊則 一級建築士事務所江角アトリエ

「Slow House」は、一目見て気に入りました。実にチャーミングな建物です。生活者と建築家が、深いところで理解し合わないという建物は出来ないでしょう。まさに、都会では不可能に近い住宅の在り方を見せてもらった気がします。庭の奥に広がる畑の稲穂は黄金色に色づいていましたが、建物はそれとまったく一体化しているようでした。居間は、主のライフスタイルそのまま、Slow Life がそのまま住宅になったような生活感あふれる「Slow House」でした。書斎、和室、洗面、そして薪を焚く風呂、そうした裏の空間も、考え抜かれた設計です。一番の特徴は、緑化された屋根ですが、煙突のデザイン、軒の面戸板のデザイン、細部にまでこだわっているのが印象的でした。まさにこれぞ、という気持ちで大賞にしました。



撮影：大竹静市郎

□ 住宅部門 優秀賞

楽山文庫 (広島県)

にしの たつや

設計者 西野 達也 金沢大学

にしの なみ

設計者 西野 奈美 にしのなみ建築設計室

「楽山文庫」も小振りながら気持ちの良い作品です。ありふれた材料を使いながら、細部にまで目が行き届いたきわめて良質な建物です。なにより、建て主の人柄と共鳴しあっている姿が印象的でした。



撮影：野村和真

□ 住宅部門 優秀賞

須波の家 (広島県)

ふじもと かずのり

設計者 藤本 寿徳 藤本寿徳建築設計事務所

「須波の家」は意欲的な作品です。二連のアーチシェルのいかに薄く美しく見せるかにこだわり抜いています。住宅という基本性能に対応しながら、普通ならここまでモノを追い込めません。その熱意に脱帽しました。



撮影：藤本寿徳

□ 住宅部門 優秀賞

キナリハウス (鳥取県)

くるま なおき

設計者 来間 直樹 クルマナオキ建築設計事務所

「キナリハウス」は素直な建物です。予想していたとおりの建物でした。控えめに丁寧に、そしてなにより誠意をもってディテールにこだわるとこういう建物になるのでしょうか。こういう取り組みに接するとホッとします。建て主のライフスタイルとシンクロしている様も好ましいものでした。



撮影：新 良太

活動報告

■ 2010年度通常総会

2010年4月27日(火) ホテルセンチュリー21にて芦原太郎 JIA次期会長を来賓に迎え通常総会が開催された。2009年度の事業報告と収支決算、2010年度の事業計画と事業予算案が承認された。



(通常総会)

■ 記念講演会

通常総会后、同場所に於いて芦原太郎 JIA次期会長が「JIAと建築家」のテーマにて講演を行った。

建築家の精神・継承の再確認

建築家として社会で頑張る理由は一体何だろうか、皆さん当然考えがあると思う。ただ世の中も随分と変わり、JIA会員 4900人の中で考え方が一致していなかったり、諸先輩方と若い方で考え方の相違があったりする。そんな中、JIA会員皆でもう一度「建築家たるもの何なのか」という事を再確認し、それを次の世代に継承していく事を考えている。次世代の建築家を育てていく事も大事だし、職能団体の役割として市民の公益の保護、社会制度づくりに参画する事も大事。これらの事を社会に分かってもらえる様な議論をして行きたいと思う。

UIA2011東京大会の成功

UIA2011東京大会は絶対に成功させないとJIAの死活問題となると思う。なぜなら、UIA大会というのは、日本が西洋から学んだ建築家の原点だからである。今後、UIA大会推進特別委員会を立ち上げ、全国のJIA会員を挙げたUIA体制を作りたいと思う。JIA会員が建築家としてのアイデンティティーを確認すると同時に、市民や社会に建築への理解・関心を促す絶好の機会にしたいと考えている。

財政再建・法人問題

会長になるにあたり様々な事を勉強していく中で、財政的には破綻しているという状況が解ってきたので、今後財政再建も一つの大きな問題となる。JIA会員の会費を値上げしないと運営出来ない状況だが、それに値するJIAになれるのかという事も当然考えないといけない。そしてその負担を誰がどういう形で負うのかを検討していく必要がある。さらに、会員資格というものをどうするのか、登録建築家というのとは一体どうなるのか、登録建築家という資格なのか国家資格なのか会員資格なのかということが絡むので、分かりやすく明確に整理し、様々な議論をした上で皆様に納得して頂ける方策を早急に考えていきたい。

それから法人問題として、公益社団法人と一般社団法人のどちらが良いのかという議論がある。将来的に、職能団体の利益と公益保護がJIAの方針だと考えるので、私自身は公益社団法人を選択した方が税制面も優遇されるし、良い事が多いであろうと思う。ただ、自由に自分達の事業が出来ないのではないかと心配や、公益社団法人ではなくなった場合に資産を一気に取られてしまうのでは、というリスクを恐れるケースもあるので、もう少し議論をした上で結論を出そうと思う。

全体的、長期的なビジョンを考えた上で「財政再建、組織再編、次世代社会システム、資格法制度」の改革の一つにまとめ、確実な一歩を踏み出す事が急務である。



(講演風景)

中国支部常任幹事 久保井邦宏